

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 日本福祉介護サービス	代表者	鈴木 正雄	法人・事業所の 特徴	小規模多機能型居宅介護支援事業所 在宅で過ごされている方の訪問サービス、通いサービス、宿泊サービスをご本人ご家族の要望や都合によりお話し合いをさせて頂きながらサービス提供を行い、緊急の際には計画にない利用にも柔軟性を持って対応できる事業所。
事業所名	小規模多機能 すずかぜ東山	管理者	山口 幸子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	4人	人	0人	1人	1人	0人	14人	0人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員で事業所改善計画を理解して業務に取り組む。 ミーティング時に定期的に取り組み状況についての確認を行う。	一人一人が改善計画を理解し業務に取り組めた。 どう取り組んでいるかの進捗や取り組んだ結果などの振り返りが出来ていなかった。	毎回出来ていないとの回答があるが、それは、同じ人ではないのか。 中には出来ている人もいますので、そういう人が説明や報告とすれば出来ていないが減ると思う。	職員全員で事業所改善計画を理解して業務に取り組む。 ミーティング時に改善対応出来ているか確認を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	広報（ホームページ、紙面）を通じ、地域へ情報発信していく。 地域の民生員、相談員をはじめ地域と共に共存共栄をしていく。	ホームページや回覧板、運営推進会議を通して事業所の取り組みについて発信し、地域の皆様に知っていただく事が出来た。	地域に向けた発信が出来ていると思う。 地域に向けてしっかり発信しており意気込みを感じた。 今後も協力し合って頑張っていきたい。	紙面やホームページを活用して情報発信していく。
C. 事業所と地域のかかわり	直接的な参加だけでなく、ICTツール（ZOOM、テレビ電話等）を使い発信する術を確立する。 自治会、地域活動等が再開されたら、参加機会を設ける。	ZOOMによる地域連絡会への参加、テレビ電話によるご家族様との面談等、ICTツールを活用した取り組みが出来た。 春の地区総会・湯本の湯けむりサロンへの参加が出来た。	無理せず取り組んでほしい。	感染症対策を行った上で、地域活動やイベントなどに参加する体制を作っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	すずかぜサロンを開始し、上述したコロナウィルスの懸念もあるが、感染対策をしながら定期的を実施していく。	月に一回、すずかぜサロンとして青空体操を開催。チラシ掲示の他、民生委員の協力をいただき地域の方に案内配布。毎月数名の方に参加いただいている。	いつも参加されている方が、歩行診断アプリで歩行状態を確認良いと言っていた。 今後も継続して開催して欲しい。活動に参加協力します。	すずかぜサロンの継続。 コロナの状況にもよるが、慰問活動の再開を検討出来ればと思う。

E. 運営推進会議を活かした取組み	1つのツールで経過が追える仕組みを作り、いつだれが見ても分かりやすい帳票作成をしていく。職員が輪番で参加できる機会を作り、職員全員がご家族や地域の方々と関われる機会を提供する。	運営推進会議事録を掲示し職員への情報共有を図った。資料と議事録確認だけでは細かい所までの理解には至らなかった。会議への輪番制にする事が出来なかった。	ご利用のご家族に評価していただくのが一番良いと思う。ご家族へも会議参加の声掛けをしていただきます。昨年より関わりが持て、進歩が感じられる。コミュニケーションの表れだと思う。コロナに負けず切磋琢磨していきたい。	運営推進会議事録にて委員の方々から上がった声をミーティング時に共有し、改善に繋げていく。ご家族様へも参加協力を呼び掛けていく。
F. 事業所の防災・災害対策	備蓄のリスト化や必要物品の確認、整理を行う。定期的に防災計画の確認を行い、お客様やご家族様地域の方々へ災害時の対策について説明をする。	食料・水ともに1日以上の備蓄を確保している。定期的な防災訓練により災害時の対策について再確認を行っている。コロナ禍の為、地元消防団や消防署の方々の協力を得る事が出来なかった。	繰り返しの訓練が非常時に必ず生きると思う。本番さながらに訓練に挑んでほしい。	火災訓練の他、水害訓練や地震訓練なども実施する。必要なこと、物品等を確認し災害に備える。
G. その他				